

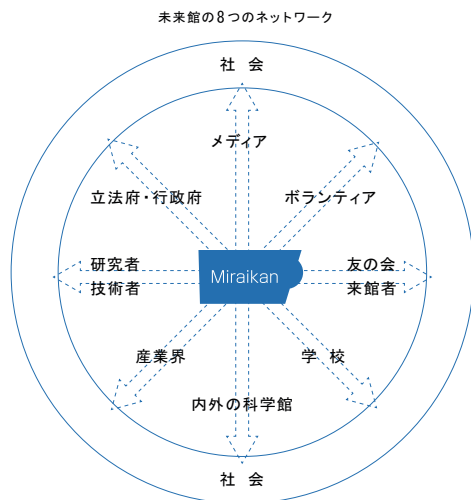
社会の中に先端科学技術の知識や考え方が浸透し、一般市民一人ひとりが人間社会と科学技術のあり方について考え、未来を視野に入れて歩んでいくこと。それが未来館のめざす社会である。そのような社会の実現のために重視しているのが、研究者・技術者、学校、国内外の科学館、ボランティア、友の会・来館者、産業界、メディア、立法府・行政府、という、8つのカテゴリーの組織や人々。未来館ではこの8つを未来館の活動と社会をつなぐインターフェイスととらえ、つながりを強化するとともに、それらを媒介として未来館の活動を一般社会へ広げていくことをめざしている。

平成21年度においても、展示やイベントをはじめとする未来館の企画開発に、多数の研究者・技術者が関わっている(P60)。また、産業界とはパートナーシップ制度による協力関係を結び、科学技術への理解を社会に伝えていく活動を共同で展開することができた(P48)。海外の科学館とは、企画展の海外巡回などを行なっているほか、国際会議に参加し、活発な発表や意見交換を行なって協力体制づくりに取り組んで

いる(P45)。さらに21年度も「全国科学館連携協議会」の事務局を務め、国内科学館の活動を支援するとともに(P44)、先進的な理数教育に力を入れている全国の学校と連携し、地域での科学教育を活性化するという大きな成果をあげた(P43)。

そのような多岐に渡る未来館の活動を社会に広めていくために重要なのが、メディア、ボランティア、来館者、友の会会員とのつながりである。社会に大きな影響力をもつメディアに対しては、未来館の情報をいち早く提供し、より効果的に未来館の活動を社会に伝えている(P49)。展示フロアやイベントなどで重要な役割を果たしているボランティアは、それぞれのスキルや経験を活かして積極的に活動の場を広げた(P46)。また友の会会員には、未来館科学コミュニケーターの企画・開発イベントを拡充し、一層の連携強化をはかった(P47)。

このように8つのすべてネットワーク先が未来館にとってのパートナーであり、ともに活動することで先端科学技術の知識や考え方を、広く社会と共有することをめざしている。



学校とのつながり

平成21年度の特徴

校外機関と連携した新しい科学教育を行なう学校の活動を促進し、生徒・先生の科学技術・理科への興味関心を高め、先端科学技術に関する理解を促進するため、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)やサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)採択校などと連携した授業や来館学習プログラムなどを実施した。特に、SSH中核的拠点育成プログラム採択校などと連携し、SSH校と地域の高校との交流を図りながら、地域の科学教育の活性化を行なった。

主な活動

未来館を活用した来館学習プログラム

3つの観点から、未来館を効果的な「学習の場」として生徒・先生が活用するプログラムを実施した。

- ①理解増進型(科学技術を知る):先端科学技術の知識を得て、リテラシーの向上を促す
- ②科学プレゼンテーション型(科学技術を伝える):科学技術について、「考える力」「まとめる力」「プレゼンテーションする力」を育てる
- ③ワークショップ型(科学技術の本質を捉え議論する):先端科学の理解の向上と思考力を育てる

参加人数:のべ110校、6,949人



「科学プレゼンテーション」の実施の様子

訪問講義(出前授業)

科学技術と社会との関わりを考えながら、思考力・判断力・表現力等の育成を図り、「生きる力」を育むために、先端科学技術をテーマにした出前授業を行なった。新規プログラム「実践!科学コミュニケーション」では、生

徒自身が「意見が言える」「質疑応答が上手にできる」「相手の立場に立つて提案ができる」といったロールプレイ形式の科学コミュニケーションを実践する授業を実施した。

参加人数:のべ29校、1,296人



「実践!科学コミュニケーション」の実施の様子

教員研修

教育委員会や理科協会が主催する教員研修の実施に協力し、未来館の活用についての議論を深めたり、実験教室の体験や科学コミュニケーション活動の実践を通して、未来館を「学びの場」として活用し実感をともなった学習を促すための教育的支援を行なった。

参加人数:のべ21件、656人

職場体験

小中学生のキャリア教育の一環として、科学コミュニケーターの仕事を体験するプログラムを実施した。

参加人数:のべ24校、228人

教育委員会や理科教育研究会との連携

教育委員会等と連携し、学校における未来館活用の推進を図った。連携教育機関:東京都教職員研修センター、埼玉県総合教育センター、千葉県総合教育センター、東京都中学校理科教育研究会、千葉県高等学校教育研究会理科部、さいたま市教育研究会理科部、江東区教育委員会 ほか

第42回全国小学校理科研究大会東京大会(10月29日、30日)において江東区立浅間小学校と連携し、4年生理科「人の体のつくりと運動」でASMOを活用した授業、6年生理科「生物と環境」で水素自動車を使った授業開発を行ない、研究発表を実施した。

●担当スタッフ:谷村優太、吉田健二、松島淳一、田中透、橋本裕子(科学コミュニケーション推進室)／小林弘房、戸高章子、秋田博文(連携推進室)／清水青志(運営業務室)

国内科学館 とのつながり

平成21年度の特徴

全国各地域にある科学館同士の連携を促進し、科学館活動に有用な情報共有と効果的な活動推進のため、巡回展やイベントなどを実施するとともに、科学館職員の研修等を、全国科学館連携協議会(以下、連携協)の事務局運営等を通じ取り組んだ。

主な活動

地域の科学館との連携活動

地域の科学館とのネットワーク構築・強化や情報共有、地域の科学教育の活性化を促すための活動を行なった。特に、科学館が科学コミュニケーションの実践の場として機能していくための取り組みとして、学校と科学館との連携活動の情報交換やノウハウの共有、職員研修等を実施した。

主な活動
出雲科学館 初任者研修
全国科学館連携協議会東北ブロック会議 「科学館と学校との連携活動～超伝導実験体験を通して～」招聘講師
静岡科学館等・く・る 職員・ボランティア研修 招聘講師
「学校(地域の小中高校)、大学(研究機関)、科学館との科学教育連携に関する情報交換会」開催

●担当スタッフ:橋本裕子、谷村優太、吉田健二、田中透(科学コミュニケーション推進室)

全国科学館連携協議会事務局

全国の科学館など約180団体が加盟している「全国科学館連携協議会」の事務局をつとめ、事務局運営を通じて地域科学館との連携を強化した。

巡回展・展示物の貸出し
しんかい6500(JAM STEC)や日本の宇宙科学の歴史、毛利宇宙飛行士の部屋など8アイテム計63カ所で開催し、各館合計で約100,000名の入館があった。

連携協ホームページのリニューアル
加盟会員同士の情報共有ツールの新たなツールとして、ホームページのリニューアルをし、科学技術振興機構による科学館を対称とした公募事業の案内や加盟会員からの情報提供など行えるようになった。

国内科学館職員研修の実施 平成22年3月18日～19日
加盟会員の実務スタッフを対象に、「学校との連携、実験教室のプログラム開発、実演・サイエンスショーと表現手法(デモンストレーション)、運営上の取り組み(Webを活用した効果的な情報発信、ミュージアムにおけるユニバーサルデザイン)をテーマに研修を行なった。

海外科学館等視察研修の実施 平成21年12月1日～4日
国際交流による科学館活動の充実や、科学館職員のスキルアップ、参加者同士のネットワーク構築を目的に海外科学館視察研修を実施した。本年度は、中国科学技術館(北京)、広東科学センターを訪問し、現地スタッフとのディスカッションや参加者同士のネットワークづくりを図った。
参加館:日本科学未来館/つくばエキスポセンター/岩見沢郷土科学館/阿南市科学センター/ムシテックワールド/出雲科学館
視察研修先:中国科学技術館(北京)/広東科学センター(広州)

連携協加盟館により地域ブロック活動の支援
全国の加盟館を8ブロックに分類し、各地域の科学館同士の交流やネットワークづくりの機会として、連携協ブロック会議の開催を支援した。

協賛物品提供のコーディネート
日立マクセル株式会社、マブチモーター株式会社の2社から物品(乾電池および工作用モーター)の無償提供を受け、その物品を加盟会員(希望者)へ配布した。

●担当スタッフ:土屋学、西祐美、橋本章(連携推進室)



広東科学センターでの意見交換

巡回展示(月のふしぎ)

海外科学館 とのつながり

平成21年度の特徴

世界の科学館と課題を共有し、ともに発展していくために、未来館は積極的に海外の科学館などとの協力体制づくりに取り組んでいる。特にアジア太平洋地域の科学館とのつながりを深めるため、さまざまなレベルで連携活動を進めている。科学館の国際会議への参加やアジアの新設科学館との覚書締結のほか、日豪の科学コミュニケーターの交流や中国での企画展巡回(詳細はP30を参照)などを実現した。

主な活動

科学館国際組織への参加

各組織の年次総会にて未来館の活動などについて発表。ASPAC(アジア太平洋地域の科学館組織)の会長を館長毛利衛が平成22年～23年の任期で務め、交流の強化に努める。

ASPAC 年次総会2009 平成21年5月26日～30日
国立科学工芸博物館(台湾・高雄)にて開催。4名が、蛍光・発光実演、新規ロボット展示の手法、気候変動についての取り組み、巡回展についてそれぞれ発表したほか、ブース出展などを行った。参加者は13地域より174人。

ECS ITE 年次総会2009(欧州の科学館組織)平成21年6月4日～6日
国立科学技術館(イタリア・ミラノ)にて開催。1名が常設展示技術コーナーの試みについて発表。参加者は48カ国より909名。

ASPAC 年次総会2010 平成22年3月22日～25日
オタゴ・ミュージアム(ニュージーランド・ダニデン)にて開催。3名が、実験教室での取り組みや展示フロアでの対話、巡回展についてそれぞれ発表したほか、他ブース出展なども行った。参加者は19地域より118名。

●担当スタッフ:安藤菜穂子、柴崎宣子(連携推進室)/石川泰彦、黒川結美、梶野玲子、プレッシュ・バンソ、山口珠美、紅知子(科学コミュニケーター)

覚書の締結

アジアに新設された科学館2館と締結し、今後の連携のベースを構築した。

国立果川科学館(韓国・果川市)
平成21年11月14日締結。平成20年11月に開館した総合科学館。

広東科学センター(中国・広州市)
平成21年12月25日締結。平成20年9月に開館した世界最大の科学館。連携協の海外研修(平成21年12月1日～4日)にて訪問した。

●担当スタッフ:柴崎宣子(連携推進室)

日豪科学パフォーマー交流プログラム2009

平成21年10月28日～11月1日

日本とオーストラリアの科学館スタッフ12名が、共同で科学ショーを創作し、「サイエンス・アゴラ」にて公開実演。約200名が参加。ウエスタコン-国立科学技術センター(オーストラリア)などと協力。

●担当スタッフ:安藤菜穂子、柴崎宣子(連携推進室)/岡山悠子、黒川結美(科学コミュニケーター)



日豪科学パフォーマー交流プログラム2009の様子。家族という設定で様々な実験がショーに組み込まれた



ASPAC 2009でのブース出展

ボランティア とのつながり

平成21年度の特徴

3つのカテゴリーで多様なボランティア活動を展開した。特徴として、スタッフボランティア活動では、Geo-Cosmos実演やサイエンスミニートークにとりくみ展示解説活動を広げた。レギュラーボランティア活動では、来館者の満足度向上・ボランティア活動のアピール・ボランティアのレベル向上を目的とするボランティアイベントを館内外で開催した。サテライトボランティア活動では、芝浦工業大学連携大学院講座「科学コミュニケーション学」実習受入れを開始し、科学コミュニケーション実践の場として活用した。

平成21年度総計

活動実績のべ人数:10,023人

活動時間:66,079.5時間

主な活動

ボランティアイベント活動

ボランティアが自身の研究を語る「チョコッとサイエンス」、普段見ることができない未来館の地下・屋上や、隣接の産業技術総合研究所を巡るツアー「ウラム ira kanツアー」などのボランティアイベント（友の会イベントを含む）16プログラムを企画・実施した。また、3階ロボットワールドでのボランティアによるABO実演は、平成18年からの累計実施250回を達成した。このほか約80件のイベントサポート協力を行った。

アウトリーチ活動

理化学研究所一般公開和光研究所および横浜研究所でボランティアイベント出展を行ない、サイエンスショーと工作教室を実施した。また、友の会イベント「星の化石を探しに行こう@ふたご座流星群」では福島県へ1泊2日の引率サポートを行なうなど協力した。

ボランティアスキルアップ研修

ISS研修「毛利館長レクチャー」、しんかい&ちきゅう研修「JAM-STECH模倣本部見学会」、技術革新と未来研修「SCによる技術分野現場研修」などのスキルアップ研修を開催した。このほか、常設展・企画展などの研修を25回実施した。

● 担当スタッフ: 福永開子、中峯宏介（科学コミュニケーション推進室）

平成21年度における主なボランティア活動一覧

実施時期	イベント内容
4月	研究棟ツアー4コース（毎月第1～4週土曜） 理化学研究所和光研究所一般公開ボランティアイベント ISSコマンドー会議
5月	実験屋台「ロボットコース」、「電磁気コース」 友の会イベント「真空のふしぎな世界」
6月	第29期新人ボランティア研修
7月	理化学研究所横浜研究所一般公開ボランティアイベント ISSコマンドー会議
8月	実験屋台「電磁気コース」 ホテル日航東京「夏休み自由研究DNA抽出・観察体験」運営協力 夏のボランティアイベント「発電自転車エコライツ〜和コロジー〜」、 「チョコッとサイエンス」、「ノーベルかがくショー」 ボランティア情報交換会
9月	友の会イベント「ウラム ira kanツアー」
10月	第30期新人ボランティア研修 実験屋台「環境コース」
11月	サイエンスアゴラ2009運営協力 実験屋台「ロボットコース」 ボランティア交流会（アクアマリンふくしま）
12月	友の会イベント「星の化石を探しに行こう@ふたご座流星群」引率 友の会イベント「航空教室&整備工場見学」引率 友の会イベント「スニッポって何！？〜キミとボクとが違うわけ〜」 ボランティア交流会（ふなばし市民大校） 身障者接遇研修
1月	実験屋台「電磁気コース」
2月	ISS研修、しんかい6500&ちきゅう研修 第31期新人ボランティア研修
3月	友の会ウィークでのボランティアイベント「チョコッとサイエンス」、 「ウラム ira kanツアー」、「ノーベルかがくショー」 平成21年度ボランティア表彰式、ボランティア情報交換会 技術革新と未来スキルアップ研修



ウラム ira kanツアー



海洋研究開発機構見学会

友の会・来館者 とのつながり

平成21年度の特徴

会員満足度の一層の向上を目的として、特典の追加（連携ミュージアムの割引等）や情報提供媒体の見直し（会報をミートサイニクスへ統合等）を行なうとともに、イベントについては特に科学コミュニケーターへの企画・開発イベントを拡充した。また、外部機関との連携により、研究モニターの体験イベントをシリーズで実施した。プラス会員の運用では、ニーズ調査に基づくサービス内容の見直しを行なった結果、第3期プラス会員に1,321名（第2期に対して約22%増・継続率:約75%）の登録があった。（会員数についてはP56を参照）

友の会会員に向けた主な活動

会員特典の追加

「バナソニック東京リヌーピア」の割引入場サービス（会員登録の提示により団体料金で入場可）を平成21年10月から開始。またM ira kan Shopにおいて「会員限定 スタンプサービス」を平成21年10月から開始した。

会員限定イベント

科学コミュニケーターが企画し、研究者をコーディネートする会員向けサイエンスカフェ「みらい倶楽部」を新たに立ち上げたほか、会員からのニーズが高い実験系イベントを主に拡充した。また、外部機関との連携により、成果のモニター体験およびユーザーの意見調査イベントを試行的に開催した。また会員全体の満足度向上を主な目的として開催した「友の会ウィーク」では、9日間の会期に約50のプログラムを集中的に実施した。
○イベント開催数:141回、参加者数:11,642名

会員限定イベントの連携先

宇宙航空研究開発機構、東北大学大学院理学研究科、つくば 夢サイエンスクラブ、NPO Science Station、東京大学地震研究所、茨城大学遠征宇宙実験施設、名古屋大学生命農学研究科、八丈島発光生物研究所、NPO 八丈島観光レクリエーション協会、芝浦工業大学生涯学習センター、農業生物資源研究所、慶応義塾大学自然科学研究教育セン

ター、トヨタ自動車（株）、トップツアー（株）、読売新聞社、プリティッシュ・カウンスル、首都高速道路（株）、バイエルホールディング（株）、産業技術総合研究所デジタルヒューマン研究センター、JST ERATO 五十嵐デザインインターフェイスプロジェクト、国立天文台、バナソニックセンター東京 リヌーピア、国立極地研究所、東京大学大学院光化学系研究科、国立感染症研究所、東京都立科学技術高等学校、パラマウントジャパン（株）、NPO くらしとバイオプラザ21、味の素（株）、多摩美術大学、（株）日本航空、理化学研究所基幹研究所、東京工業大学大学院総合理工学研究科、東京工業大学理学部地球惑星科学科、気象庁、気象研究所、電子情報通信学会、日本女子大学理学部数物科学科、東京大学 大規模集積システム設計教育研究センター、神戸大学、（株）リコー、（株）リソー教育、（有）ラド、東京大学サイエンスコミュニケーションサークルCAST、東京大学教養学部教養教育開発機構、東京大学数物連携宇宙研究機構、首都大学東京、早稲田大学GOCグローバルロボットアカデミア、花王（株）、日本アイ・ピー・エム（株）、（株）サイエンス・ラボ、（株）Truth Academy

会員への情報提供

会報「みらいくん」第31号・32号（平成21年6月・9月）を発行した。平成21年11月より、未来館と先端科学についてより深い情報を提供することを目的として、会報「みらいくん」を未来館の情報誌「Me+Sci（ミーサイニクス）」に統合し、「Me+Sci（会員限定版）09・10号をそれぞれ平成21年11月、22年2月に発行した。また、「友の会Eメールリスト」による情報発信を一般会員（Eメールの登録数:約5,500件）に対し26回、プラス会員（Eメールの登録数:438件）を計39回行った。
※登録数は平成22年3月31日時点

● 担当スタッフ: 橋本裕子、鶴ヶ崎勝、代島慶一（科学コミュニケーション推進室）

産 業 界 とのつながり

平成21年度の特徴

パートナーシップ企業より未来館の事業に対し、ご支援いただいた。また、イベント等を通してパートナー企業との協働の場を拡大した。

企業とのパートナーシップ

オフィシャル パートナー

【ブラチナ】株式会社リコー

【ゴールド】株式会社リソー教育

【シルバー】旭化成株式会社

株式会社NTTドコモ

九州電力株式会社

トップツアー株式会社

出光興産株式会社

サポーター

株式会社岡村製作所

大塚製薬株式会社

社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム

オフィシャル サプライヤー

レゴジャパン株式会社

学校法人千葉工業大学

株式会社岡村製作所

有限会社ラド

株式会社日立ハイテクノロジーズ

その他

ヒューマノイドロボットを来館者が身近に感じる実演用に、本田技研工業株式会社からASMO (ver.2.0) のほか、静態展示

用にASMO (ver.1.5) の有償貸与をいただいた。また、匿名4社からいただいた寄附金によりリース導入した水素自動車も、20年度に引き続き、日常業務に供した。

主な活動

開催日	タイトル	企画企業名
H 21/4/3	スクールツアーシップ ホタルはどうやって光るの？生物の神秘にせまる!!	株式会社リソー教育
H 21/7月	サイエンストリップ 皆既日食ツアー	トップツアー株式会社
H 21/7～9月	スクールツアーシップ 小学生のための体験学習夏休み特別号（ツアーパンフレット）スペシャルインタビュー館長 毛利衛	株式会社リソー教育
H 21/7/26、8/7	スクールツアーシップ ガリレオ望遠鏡作りにチャレンジ!!	株式会社リソー教育
H 21/8/3～31	みんなドットでできている？デジタルプリントふしぎ教室	株式会社リコー
H 21/10/31	自然放射線の飛跡を見てみよう！（サイエンスアゴラ）	有限会社ラド
H 21/10/31～11/3	南半球のまだ見ぬ星空～知られざる南半球の星空への誘い～（サイエンスアゴラ）	トップツアー株式会社
H 21/11/14	リソー教育デー	株式会社リソー教育
H 21/11/21～H 22/3/22	企画展「おいしく、食べる」の科学展 資料提供協力	旭化成株式会社／旭化成パックス株式会社
H 21/11	ミーサイニュース09号「未来をつくる仕事」VOL.1掲載協力	株式会社リコー
H 21/11	ミーサイニュース10号「未来をつくる仕事」VOL.2掲載協力	株式会社リソー教育
H 22/3/20	リコーサイエンスキャラバン「コピー機になってみよう！」（友の会ウィーク）	株式会社リコー
H 22/3/22	サイエンスTOMAS「ミネルワウォーターを出てみよう！」（友の会ウィーク）	株式会社リソー教育
H 22/3/20～22	サイエンストリップ「南半球のまだ見ぬ星空」（友の会ウィーク）	トップツアー株式会社
H 22/3/22	放射線って何？霧箱で実験しよう！（友の会ウィーク）	有限会社ラド

● 担当スタッフ：中田譲、谷平秀徳、羽田野佳子（連携推進室）

メディア とのつながり

平成21年度の特徴

広く国民に開かれた未来館として、国の施策や社会的な科学トピックスについてメディアと連携し、科学コミュニケーション活動を促進しながら興味喚起の機会創出を積極的に行なった。また、これまで築いたメディアとの協業体制を進化させ、報道対応でも当館の存在意義についてアピールした。具体的には一般生活者に向けて科学技術に関する広報活動として全国ネットで放映するテレビ番組の科学監修や、国際広報の一環としてロシア人ジャーナリストツアーなどを行なった。

主な活動

サイエンスアドベンチャー

「宇宙でピンチ！地球がピンチ？」（平成21年4月13日開催）

内閣府が主催した、野田聖子内閣府特命担当大臣と館長毛利衛が進行を務めた科学技術週間のイベント。取材誘致の結果、事前、事後でも多数のメディアによる取り上げがあった。

テレビ朝日「奇跡の地球物語」（毎週日曜日、18:30～）

2009年10月より放映開始。科学コミュニケーション活動の認知度向上のための科学監修を行なう。企画展開催時には、「食」に関する放送回にて科学コミュニケーターの出演等も行なう。

企画展「お化け屋敷で科学する！～恐怖の研究～」広報活動

新聞やテレビでの露出で、連鎖的に多媒体からの取材を誘致。一般生活者から高い反響を得た。

掲載件数：195件
TBS「王様のブランチ」（5月2日放送）、フジテレビ「とくダネ！」（5月11日放送）、日本テレビ「ニュースリアルタイム」（6月10日放送）ほか

日本経済新聞タイアップイベント（平成21年7月7日）

日食に合わせて日経新聞東京本社で行なったイベント。未来館での特別展示やイベントに関連して、科学コミュニケーターが講演。日経新聞読者であるビジネスマンを中心に、家族連れの姿も多く見られた。
開催場所：日経新聞東京本社 SPACE NID
参加人数：95名

企画展「おいしく、食べる」の科学展」広報活動

①掲載件数：565件
読売新聞（11月20日掲載）、NHK「ニュース9」（11月21日）、フジテレビ「スーパーニュースWEEKEND」（11月21日）、TBS「はなまるマーケット」（12月10日）、TBS「王様のブランチ」ほか

②国立新美術館×日本科学未来館 アート×サイエンスクロストーク
国立新美術館の「野村仁 変化する相一時・場・身体」展会期中に、国立新美術館の展覧会担当研究員と、科学コミュニケーターが展示作品を中心に、美術と科学、双方の観点から語り合う企画を開催。新しい試みとしてメディアに取り上げられた。

③リクルート「コレカラ」タイアップイベント
「おもしろ食育講座」として4回シリーズで開催。企画展に関連するコンテンツについて、協力研究者を招致し、講座を開催。雑誌とWebにて告知、収録された。

④J-WAVE「地球マルシェ」（平成22年1月11日）
ラジオの特別番組と食をテーマの企画展を連動させ、エントランスにて小山薫堂氏プロデュースのマルシェを開催。生中継にて食と環境、科学技術の関係を情報発信した。

南極授業「先生は今、南極にいます！！～非日常のエコロジー～」
（平成22年2月6日）

国立極地研究所と連携したイベント。広範囲での連携も強化し、通常の広報活動のほかTwitterとストーリーミング配信を行なう特設サイトの活用により、双方向のコミュニケーション展開を行なった。

● スタッフ：富田知宏、米山智夏、神宮里江、林秀一郎、下山道生（広報室）

メディアに取り上げられた未来館【主な新聞・雑誌記事・テレビ放送番組一覧】

媒体社名	媒体名	内 容	放送日・掲載日
静岡新聞社	静岡こどもかがく新聞	科学コミュニケーターが旬のトピックスを毎月執筆	H19/6～
中日新聞社	東京新聞	科学コミュニケーターが旬のトピックスを月1回程度執筆	H20/2～
産経新聞社	産経新聞（東京）	「大臣と考える『地球がピンチ?!』というタイトルで、イベントを写真付きで紹介	H21/4/14
読売新聞社	The Daily Yomiuri	“Robot takes Mirakan”というタイトルで、ターミネーター展について特集	H21/4/17
ワールドフォトプレス	モノ・マガジン	「お化け屋敷で科学する」の内容紹介	H21/5/2
テレビ東京	ワールドビジネスサテライト	「科学で味わう日本酒」イベントの様様を紹介	H21/5/8
フジテレビ	とくダネ!	ノーベル物理学賞の益川敏英氏がお化け屋敷展を体験している様子を紹介	H21/5/11
信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞	『しっぽ』付けて振るませんか?というタイトルで、メディアラボにて開催したクワクポリョウタ氏の展示をシリフリンを中心に紹介(その他地方新聞社でも掲載あり)	H21/6/1
ぎょうせい	Forbes 日本版	日本総合研究所会長寺島実郎氏と館長毛利衛が宇宙開発の可能性について対談	H21/6/22
産経新聞社	SANKEI EXPRESS	エントランスに設置した、シェルピンスキーの森について、写真付きで掲載	H21/6/30
J-WAVE	Good Morning Radio	科学コミュニケーターの池辺靖が生出演。皆既日食、未来館での関連イベントについて紹介	H21/7/9
リクルート	コレカラ	「この夏、博物館にハまる!」の巻頭特集にて、館長毛利衛が未来館を案内	H21/7/22
IPC TV 国際グローボ	JOURNAL DA IPC	ブラジル人に向けたTV番組にて、未来館の日食イベントの様様を紹介	H21/7/22
朝日新聞社	朝日新聞	未来館で開催された日食のライブ中継イベントの様子を写真で紹介	H21/7/23
NHK	いっと6けん	「金曜インタビュー」のゲストに詩人・谷川俊太郎氏が生出演。「夜はやさしい」について紹介	H21/7/31
テレビ朝日	Sm@Station!	「夏休みに子どもが行きたいレジャースポットベスト15」の特集にて、未来館を1位で紹介	H21/8/15
日本テレビ	Oha!4	野田聖子科学技術政策担当大臣や館長毛利衛、子どもたちが、国際宇宙ステーションにいる若田光一飛行士と交信した様子を紹介	H21/8/26
新華社通信	新華社通信	未来館の常設展示を中心に活動を紹介	H21/8
日経サイエンス社	日経サイエンス	「中秋の名月を楽しもう」という特集の中で、未来館のお月見イベントを紹介	H21/9/24
キューバ共和国国営ラジオ・テレビ協会	キューバ共和国国営テレビ	未来館活動の紹介、および館長毛利衛がキューバと日本の科学外交についてコメント	H21/10
ジャパンタイムス社	THE JAPAN TIMES	館長毛利衛のロングインタビューを掲載	H21/10/4
日本経済新聞社	日本経済新聞	入館者600万人達成のセレモニーの様様を紹介	H21/10/22
NHK	おはよう日本	「『おいしく、食べる』の科学展」企画展会場より生中継。ミドリムシを中心に、企画展を紹介	H21/12/7
テレビ朝日	奇跡の地球物語	「食」をテーマにした放送の回で、「『おいしく、食べる』の科学展」について紹介。科学コミュニケーターの森田由子が出演	H21/12/13
読売新聞社	読売新聞	新春特集にて、「日本の進むべき道」について、橋本五郎氏と館長毛利衛の対談	H22/1/1
朝日新聞社	朝日新聞	南極授業イベント「先生は今、南極にいます!」の様様を紹介	H22/2/15
TBS	王様のブランチ	姫のお出かけコーナーの「春エコ」特集にて、企画展を体験レポート	H22/3/6
玄光社	イラストレーション	かこさと氏を紹介する企画の中で、「きみのみらい・みらいのきみ」展を紹介	H22/3/16
朝日新聞出版	週刊朝日	未来技術のグラビア特集内にて、「ドラえもん科学みらい展」の紹介	H22/3/25

研究者・技術者
とのつながり

平成21年度の特徴

日本科学未来館は、展示やイベント等の企画開発に際して、現在活躍している研究者や技術者と連携することで、先端の科学技術に関する情報を社会に発信し、互いが交流する拠点を担っている。平成21年度は研究機関、大学および海外のミュージアムと展示やイベントの共同開発や人員の相互交流などを行なった。また3つの機関と新たにMOU(Memorandum of Understanding)を締結した。

学術研究相互協力および教育研究協力に関する協定(MOU)の締結先

平成21年度の新規締結先

7月8日: 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構
基礎生物学研究所、生理学研究所、分子科学研究所
11月14日: 国立果川科学館(韓国)
12月25日: 広東科学センター(中国)

前年からの継続締結先

Questacon-The National Science and Technology Centre(オーストラリア)
独立行政法人 理化学研究所
芝浦工業大学
千葉工業大学
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台
国立極地研究所
学校法人 東海大学情報技術センター
独立行政法人 産業技術総合研究所臨海副都心センター
国立中央科学館(韓国)

MOU締結先との主な活動

未来館を活用した連携イベントの実施(館内)

東京ベイエリアロボフェスタ 特別シンポジウム「ロボットを通じて次世代人材育成を考える」平成21年6月27日
芝浦工業大学のロボット制作研究室と連携し、シンポジウムを共催した。参加人数は約2,000人。

マーク・ルーニ来日公演 Rock Guitar in 11 Dimensions
「ロックギターが11次元宇宙を語る」平成21年9月21日
東京国際科学フェスティバル実行委員会主催の公演を協力実施した。国立天文台、ブリヂニッシュ・カウンシル共催。参加人数は約200人。

シンポジウム「身体の中のにぎやかな世界 ～ライブイメージング技術で見てきた、細胞たちの働く姿～」平成21年11月28日
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構(基礎生物学研究所、生理学研究所、分子科学研究所)とシンポジウムおよび体験展示を共同主催した。参加人数は425人。

「サイエンスカフェ～みらい倶楽部～Vol.3「昆虫の秘密vs光合成の実力」だから科学は面白い」平成22年1月11日
未来館友の会を対象に理化学研究所 研究者によるサイエンスカフェを主催した。参加人数は31人。

南極授業「先生は今、南極にいます!! ～非日常のエコロジー～」平成22年2月6日
国立極地研究所の初の教員派遣プログラムにあわせ、昭和基地との南極授業を共催した。参加人数は350人。

外部機関での連携活動の実施(館外)

理化学研究所(和光研究所、横浜研究所)一般公開への協力
平成21年4月18日、平成21年7月4日
未来館ボランティアのノーベル隊を派遣し「ノーベル化学ショー」を実施した。参加人数は約400人。

国立極地研究所 立川移転記念講演会「立川に南極がやってくる!」平成21年5月2日
国立極地研究所の移転を記念し、講演会を共催した。館長毛利衛が出演。参加人数は956人。